

学年	高校3年	教科	国語	科目	古典探究	単位数	3
教科書名		高等学校 古典探究 (数研出版)		副教材名	読んで見て聞いて覚える 重要古語単語 315 三訂版 (桐原書店) 新精選 古典文法 (東京書籍) 古典文法習得のための助動詞マスターノート (数研出版) 基本セミナー 漢文入門 (浜島書店) 精説漢文 (いいずな書店) 読み解く古典2 (浜島書店)		
コース・クラス		中高一貫理系					

I. 目標

古典作品を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くする。また、基礎学力到達度テストはもとより、大学入試にも対応できる能力を培う。

II. 授業のねらい

古典に表れているさまざまなものの見方や考え方を、古典についての解説や随筆なども必要に応じて参考にしながら、的確に読み取ることを通して、思考力や想像力を伸ばす。

III. 授業の進め方

- 1 文法・句法理解、文章内容の読解を主とし、講義に加えてペア・グループワークを展開する。
- 2 基礎学力到達度テスト・大学入試対策のための問題演習を適宜取り入れる。
- 3 文法書、国語便覧など、各種資料を駆使して広い知識を学ぶようにする。

IV. 学習上の留意点

- 1 教科書の新しい単元に入る際は、予習として語句調べや作品の通読、書き下しを行うこと。
- 2 古文単語や文法、漢文の漢字の意味や句法に関する小テストを通じて、確実に知識を蓄積すること。
- 3 不明点はそのままにせず、授業後や放課後等を積極的に活用してすぐに解消すること。

V. 定期試験

- 1 学期 中間試験 : 『蜻蛉日記』, 『史記』, 初見問題
- 1 学期 期末試験 : 『無名抄』, 『栄花物語』, 『史記』, 初見問題
- 2 学期 期末試験 : 『源氏物語』, 『捕蛇者説』, 初見問題

VI. 評価の方法

定期試験を中心に、小テストや提出物の状況も踏まえて総合的に評価する。

- 1 定期試験…授業内容をしっかりと理解し、それを応用することができているか。
- 2 小テスト…計画的に自学自習を行い、意欲的に小テストに臨むことができているか。
- 3 提出物…積極的に授業に参加し、課題に対して期限を守り、真摯に取り組むことができているか。

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	基礎学力テストに向けての演習	定期試験 小テスト 提出物	<ul style="list-style-type: none"> 問題演習を通して基礎学力到達度テストに必要な実戦力を身に付ける。
	5	日記『蜻蛉日記』より「うつろひたる菊」		<ul style="list-style-type: none"> 作者の心情を読み取ることができる。 贈答歌の手法を理解する。 日記文学の特性について理解する。
		史伝『史記』より「天道是か非か」		<ul style="list-style-type: none"> 漢文句法や漢文の基礎知識を活用して正確に読解できる。
	6	評論『無名抄』より「俊成自賛歌のこと」		<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の相互関係や歌壇の状況を踏まえ、当時の和歌に対するとらえ方や評価の観点を読み取ることができる。
	7	歴史物語『栄花物語』より「兼通と兼家」		<ul style="list-style-type: none"> 敬意の方向について理解を深め、それを読解に活かすことができる。 本文の精読を通して、貴族社会の常識や、貴族階級の人々の思想を理解することができる。 歴史物語の特性について理解する。
	史伝『史記』より「勿頸の交はり」	<ul style="list-style-type: none"> 漢文句法や漢文の基礎知識を活用して正確に読解できる。 		
		※適宜問題演習		
一学期	9	基礎学力テストに向けての演習	定期試験 小テスト 提出物	<ul style="list-style-type: none"> 問題演習を通して基礎学力到達度テストに必要な実戦力を身に付ける。
	10	物語『源氏物語』より「紫の上の死」		<ul style="list-style-type: none"> 登場人物がどのように描かれているのかを読み取ることができる。 作中の和歌を読み取り、それが本文中でどのような役割をしているのかを読み取ることができる。
	11	漢文 「捕蛇者説」		<ul style="list-style-type: none"> 漢文句法や漢文の基礎知識を活用して正確に読解できる。 時代背景を踏まえて筆者の主張を理解する。
	12	※適宜大学入試過去問題等を使用した演習を取り入れる。		<ul style="list-style-type: none"> 問題演習を通して大学入試問題に必要な実践力を身に付ける。

VII. 授業計画

※ シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により変更することもあります。